

Tsuda Today

発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
電話 042-342-5113
FAX 042-342-5121
URL <http://www.tsuda.ac.jp>

二〇〇三年度入学式挙行

四月七日、二〇〇三年度入学式が本学特別教室にて挙行されました。本年度の入学者は、学部生七一人（新入生・英文学科二八七人・国際関係学科三〇二人・情報数理科学科一二三人、編入生・英文学科五人・国際関係学科一人）、大学院生二七人（文学研究科修士課程十一人・同後期博士課程八人・国際関係学研究科修士課程一人・同後期博士課程三人、理学研究科修士課程四人、計七四五人です。七日は、晴天に恵まれ、満開の桜が、新入生を迎えました。

午前十時から執り行われた入学式では、志村尚子学長から新入学生へ歓迎と激励のメッセージが送られました。



入学式で挨拶する志村学長

学長式辞要旨

皆さん、ご入学おめでとうございます。

二一世紀は、世界の平和や安全についてこれまで以上に予測が難しい状況に直面していますが、このような背景を踏まえて大学で学ぶということについてお話ししたいと思います。

それは、一言で言えば「自分で考える」ことを中心とした教育です。

学びのプロセスは、私たちの誕生とともに始まります。様々な人との出会いや経験により、私たちは多様な知識や情報を吸収していきます。学校教育も高校レベルまでは情報と知識の蓄積が中心と言っても良いでしょう。

しかし、それだけでは教育は十分とは言えません。大学では、引き続きより高度な知識や情報を吸収することももちろん大切ですが、それを基盤として自分で考えること、自分で課題を提起しそれについて自主的に情報を収集・調査し、考察・判断して自分なりの解答や結論を見出すことが求められます。

実際には、最近までの日本では、大学レベルでもいわゆる知識伝承型の教育が主流であったといえます。近年になって、日本でもようやく学生が自主的に考える能力を身に付けることが必要であると言われるようになりましたが、その実践はまだ一般的ではなく、十分

とも言えません。しかし、この津田塾大学は創立以来一〇三年、創立者津田梅子の教育理念に基づいて、自分で考え、行動する女性の育成を目指してきました。

世界は複雑・多様であり、急速に変わりつつあります。そのような時代に、教えられた知識はすぐ時代遅れになってしまい、それだけでは時代の要請に対応することは不可能です。私たちは、生涯にわたって学びつづけ、自分で自分を教育しつづけることが求められています。

しかし、「自立」は孤立ではなく「自分で考える」とは他の人の考えに耳を貸さない独善と同じではありません。むしろ積極的に他の人々、他の国、民族、宗教、伝統に属する人々の考えに心を開いて謙虚に聴き、様々な問題について広く情報を集め、事実を確認し、慎重に検討した上で、自分の結論に達するべきです。そのような考えに基づいて行動する時、私たちは決して「ひとり」ではないと言ったことを認識する必要があります。私たちの考えと行動は、計り知れない多くの人々に重大な影響を及ぼし得るのです。そしてそのような地球社会の一員である私たちは、自分の考えを回りに向かって発信する責任もあります。

この大学は、皆さんが教育に求められている全てのものを提供する事は出来ないでしょう。しかし、皆さんが、自主的に積極的な

探究心をもって物事に向かうならば、そして自分で自分の教育を作り上げる意思と努力を惜しまないならば、この大学はきっとそれに応え得る教育環境を作っていると感じています。

皆さんのご健闘をお祈りいたします。

津田塾一〇〇年の歩み

『津田塾大学一〇〇年史』刊行

本学創立一〇〇周年記念事業の一環として編纂を進めてまいりました『津田塾大学一〇〇年史』および『津田塾大学一〇〇年史資料編』が本年三月に刊行の運びとなりました。

通史編は、二十数名の執筆者の手により、本学の前身である女子英学塾創立前史にはじまり、創立一〇〇周年記念事業・式典にいたるまでの本学の歩みを記録したもので、十六ページの口絵とともに五七〇ページとなりました。資料編は、創立以来の教育研究内容の変遷等を主に重点を置いて収集した資料と年表からなるものです。英学塾時代の学生が毎年卒業時に作詞し、歌った「卒業の歌」など、珍しい資料も収録いたしました。日本の女子高等教育の足跡を記録するこの一〇〇年史は本学図書館等で閲覧可能です。

購入等に関するお問い合わせは企画広報課（電話〇四二―三四二―一五一―一三）で受け付けております。

よろしくお願ひします 新任専任教職員紹介

①所属 ②主な担当科目
③趣味 ④自己紹介

【教員】



あべ ようこ
阿部 曜子

①英文学科 講師

②英詩概論、合同セミナー（イギリス文学）、3年セミナー（イギリス文化）

③通勤時に自家用車内で聞く音楽（ロックとクラシック）が心の栄養剤です。

④専門はイギリス詩と十六・十七世紀のイギリス文学・文化です。一見「とっつきにくい」分野かもしれませんが、どちらかイギリス文化の中でも大変活気に満ちた領域です。津田に来て一ヶ月、真摯な眼差しの学生さんと共に勉強ができるのをとても楽しいことだと感じています。妥協はしない、けれども学生の皆さんに届く授業を目指して、頑張っていきたいと思っています。



なか い ひろ やす
中井 博康

①国際関係学科 講師

②スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ

③体を動かすこと（小学校から大学までサッカー部）。映画・音

楽・美術鑑賞（主にスペイン語圏）。

④専門は十六・十七世紀を中心としたスペイン・ラテンアメリカの文学です。とはいえ、授業では文学にこだわることなく、いろいろなことを一緒に学んでいこうと思っています。

卒業してから、スペイン語圏の文化に親しみ、歴史に思いを馳せ、社会的な関心を持ち続ける。一人でも多くの学生にそうなるてもらいたいと、大いに張り切っています。

【職員】



おか も と げ ん
岡本 源

①事務局付け

③音楽鑑賞、映画鑑賞。最近みた映画は、「二四アワー・パーティー・ピープル」です。

④先日、総務課で映画「八マイル」の話題が出た時、誰も「エミネム」を知らなかったことに、ジエネレーション・ギャップを感じました。しかし、このギャップこそがより学生に近いという証しなので、これを生かして、「新人」だからこそでできる仕事をしたいです。朝は早くて眠いですが、頑張ります。よろしくお願ひします。

リサイクル自転車貸出に希望者多数集まる！

リサイクル自転車貸出は今年で三年目を迎えました。これは卒業する四年生に不要となった自転車の寄付を募り、自転車を点検・整備し、在学生に無料で貸し出すものです。

リサイクル自転車貸出の抽選会は、四月十七日の昼休みに行われました。

一年目は二〇台、二年目は三一台、そして三年目の今年は三三台の自転車が付きました。それに対し、借用希望者は過去最高の一五二人が集まり、当選率は五倍強という人気ぶりでした。

近年学内の放置自転車が増え、その対策の一環として始めたリサイクル自転車貸出ですが、放置自



見事当選してピースサイン

転車の問題はあまり改善されていません。不要になった自転車はそのまま放置せず、寄付の手続きをしていただければ有効に活用できます。寄付の申し込みは随時受け付けていますので、管理課までお知らせください。

在学生に好評！「西国分寺セミナーハウス」

西国分寺セミナーハウスは、本学元学長の中島文雄・千津ご夫妻のお住まいであったものを譲り受けたもので、JR中央線・武蔵野線西国分寺駅から徒歩約十分の閑静な住宅街に位置しています。

敷地は、三面が道路に面し、庭は植木や庭石が程よく配置され、丹精こめて造られています。建物

は、日当たりの良いゆつたりとした木造二階建住宅です。セミナーハウスとしての利用に際し、一、二階の内装を一新しま

した。一階は十〜十五人程度のセミナーが行える部屋を二部屋用意し、二階には新規に台所を設け、セミナー合宿にも利用できるようになっていきます。

昨年十一月から施設利用を開始し、半年が経過しましたが、毎週利用予約が入っており、人気の施設となっています。キャンパスを離れ、いつもと違った雰囲気で行われるセミナーは、学生達の学習意欲をより一層高めてくれるようです。

ようこそ津田塾大学へ

協定大学からの交換受入れ学生紹介
謝 佳秀

淡江大学（台湾）

在籍期間

二〇〇三年四月〜二〇〇四年三月

在籍学科 英文学科

Wiguna, Alvernia

オーストラリア国立大学

（オーストラリア）

在籍期間

二〇〇三年四月〜二〇〇四年三月

在籍学科 国際関係学科

Celeste, Richell

フィリピン大学（フィリピン）

在籍期間

二〇〇三年四月〜二〇〇四年三月

在籍学科 大学院理学研究科

Demapan, Geraldine

ランドルフ・メイコン女子大学（アメリカ）

在籍期間

二〇〇三年四月〜二〇〇三年八月

在籍学科 英文学科



セミナー合宿で先生（中央）を囲んでの夕食

二〇〇三年度入試概況

一般入試にC方式（センター試験のみで選考）を導入して二年目の今年度入試の志願者総数は、六〇八九人で前年度比三％の減でした。各方式別では、A方式（本学独自入試）は、三三〇八人で前年度比四・五％の増、B方式（センター試験三科目十大学個別学力試験）は、一二七七人で前年度比二・五％の減、C方式は、一五〇四人で四・六％の増でした。二〇

二年度にC方式を導入して前年度比四五％の大幅増となった志願者数をほぼ維持することができました。

英文学科で募集した指定校制推薦は五三人が合格し、情報数理科学科の公募制推薦は志願者三二人、合格者十九人でした。また、英文学科での募集二年目の社会人入試は、志願者十四人、合格者四人と関心が高まりつつあります。一般入試の概況は、左表の通りです。

2003年度 入試データ

A方式

学 科	選択科目	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		補欠者数	入学者数	合格点		競争率
					正規	補欠			最高	最低	
国際関係学科	世界史	207	818	806	291	0	291	19	337	240	2.8
	日本史		595	584	202	0	202	10			
	数学		290	284	100	0	100	5			
計		207	1,703	1,674	593	0	593	34			
英文学科	世界史	155	563	552	203	6	209	13	340	234	2.9
	日本史		466	458	138	5	143	11			
	数学		195	186	59	1	60	3			
計		155	1,224	1,196	400	12	412	27			
情報数理科学科		65	381	365	170	3	173	11	70	270	2.1
計		65	381	365	170	3	173	11			
合 計		427	3,308	3,235	1,163	15	1,178	72	458	—	2.7

B方式

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		補欠者数	入学者数	合格点		競争率	
				正規	補欠			最高	最低		
国際関係学科	25	481	226	51	0	51	0	38	794.5	558.5	4.4
英文学科	25	610	253	90	0	90	10	42	435.5	354.0	2.8
情報数理科学科	10	186	89	36	0	36	8	23	553.5	359.0	2.5
合 計	60	1,277	568	177	0	177	18	103	—	—	3.2

B方式 会場別志願者数・合格者数

学 科	札幌		仙台		東京		名古屋		大阪		福岡	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
国際関係学科	14	0	29	7	358	34	30	3	26	3	24	4
情報数理科学科	5	0	7	2	131	21	13	2	14	4	16	7

C方式

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		補欠者数	入学者数	合格点		競争率	
				正規	補欠			計	最高		最低
国際関係学科	8	478	478	156	0	156	0	27	481.5	398.0	3.1
英文学科	10	761	761	209	0	209	0	25	550.0	475.0	3.6
情報数理科学科	5	265	265	86	0	86	0	9	548.0	460.0	3.1
合 計	23	1,504	1,504	451	0	451	0	61	—	—	3.3

社会人入試

学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		補欠者数	入学者数
				正規	補欠		
英文学科	若干名	14	14	4	0	4	3

二〇〇四年度入試概況

一 一般入試日程

A方式

国際関係学科 二月五日（木）
英文学科 二月六日（金）
情報数理科学科 二月七日（土）

B方式

国際関係学科・情報数理科学科 二月二七日（金）
英文学科 二月二八日（土）

二 変更点

一、情報数理科学科ではAO入試（募集人員若干名）を実施します。問題解答型の公募制推薦入試に対し、AO入試はテーマ取り組み型です。五月下旬にホームページ等で発表されるいくつかのテーマから一つを選び、情報数理科学科の教員に質問、相談をしながら自分なりに取り組み研究し、その成果を発表するという入試です。募集対象を現役生に限らず浪人生、大検合格者等も含めたことも特徴です。

二、情報数理科学科の募集人員の内訳が、一般入試A方式では六五人から六二人に、B方式では十人から十三人に、C方式では五人から八人に、公募制推薦入試では約二〇人から約十七人に変更になります。

三、C方式国際関係学科の出願書類から「志望理由書」が無くなります。

・入試に関する詳細は、企画広報課入試室までお問い合わせ下さい。
電話 〇四二一三四二五二二〇

ご支援・ご協力に
感謝申し上げます

一般寄付者ご芳名
☆フレッシュマン・スカラシップとして
三〇万円 古木 宜志子

☆奨学金として
三〇〇万円

津田塾大学生生活協同組合
☆記念館内生協エリア部分
電灯動力分電盤改修増設及び移設費用のため
六三万円

津田塾大学生生活協同組合
☆教育研究施設設備充実のため
二〇万円 大高 富二子
一〇万円 匿名
二万円 匿名
七千円 匿名

（二〇〇三年五月十五日現在、
経理課受付分、敬称略）



プレーデーでメイポールダンスを踊る学生達

新刊紹介

『津田梅子の社会史』

高橋 裕子著（英文学科助教授）
近代日本女子高等教育界のバイオニア津田梅子。本書は生い立ちから米国での留学生生活、帰国後の文化的葛藤、再留学、そして女子英学塾建学に至るまでを、梅子に影響を与えた思想・人物に拠りながら検討しています。また、新たに発見された書簡等から、日米の価値観の懸隔に揺れた内面生活や終生抱き続けた教育にかける信念を跡づけています。梅子の相対的な評価を試みた示唆に富む力作です。

『津田仙と朝鮮』 朝鮮キリスト教受容と新農業政策 世界思想社
金 文吉著（韓国釜山外国語大学 校日本語科教授）

津田梅子の父、津田仙は明治初期の日本で農学者、教育家、キリスト者として活躍しました。その人物と業績をたどり、安宗洙と李樹廷という二人の朝鮮人とのかわりを中心に、仙が朝鮮の近代化と日朝友好の文化交流にはたした役割を探ります。

『わたしの呼び名は』

『まあもちゃん』

岩波書店 岩波フォト絵本

森山 眞弓編著

本学卒業生で法務大臣の森山眞弓がまとめたフォト絵本。ファミリアルバムで昭和・平成史をたどります。

二〇〇二年度 卒業式・学位授与式

去る三月十九日、二〇〇二年度の学部卒業式・大学院学位授与式が行われました。

学部卒業生五九八人(英文学科二四〇人・国際関係学科二五二人・情報数理科学科一〇六人)、大学院修了者二四人(文学研究科修士課程十一人・同後期博士課程五人、国際関係学研究科修士課程三人、理学研究科修士課程五人)一人ひとりに、志村学長から学位記や修了証書が授与されました。



志村学長から学位記を授与される卒業生

学長式辞要旨

皆さんおめでとうございます。また今日まで皆さんを見まもり、激励してくださったご父母の皆様、ご家族、その他関係者の方にもお慶びを申し上げ、ご支援に対し厚く御礼申し上げます。

本学は、津田梅子先生の自立し、自主性に富む女性を育成するという先覚的な理念のもと、一貫してこの精神に基づいた教育を目指し

て来ました。津田塾で学ばれた皆さんは、それぞれの選ばれた道で、先輩達がそうしてきたようにベストを尽くし、生涯学び続ける志を持ち、社会の様々な事象に問題意識をもって参画し、貢献する人生を送ってくださると信じます。

皆さんをとりまく世界は今日、日本国内、国外ともに多くの重大で困難な問題に直面しています。

国内に目を向ければ経済の低迷、政治の機能不全、改革の停滞などが政治に対する深刻な不信感と閉塞感をもたらし、若い世代の選挙での投票率は低下の一途をたどっています。しかし政治から顔をそむけることは決して改善にはつながりません。私達は民主社会の市民として、政治に関心を持ち、選挙には一票を投じ、いろいろな方法によって少しでも良い政治、より良い社会を築いていく責任があります。

国外に目を転じれば、又も戦争の足音がせまっています。イラク問題をめぐって国連で国際合意を構成しようとする努力は不幸にも失敗に終わり、国連憲章が必要とされる安全保障理事会の決議なしに、一部の国々による一方的な武力行使がまさに始まるうとしています。もちろんイラクが保有していると考えられる大量破壊兵器は平和への脅威であり、湾岸戦争以来十年間の国連決議へのイラクの対応と査察への協力は、最近改善されたとはいえ、不十分であったと言

われています。

しかし、今日世界の多くの国々がこの武力行使に賛同せず、賛同している国も含めて多くの国で八〇%に及ぶ人々が反対し、多くの学者が国際法に違反するという見解を述べています。数日前には世界各地で一千万にのぼる市民による戦争反対のデモが行われました。これらの現象は世界の多くの国々や人々が現在の状況における武力行使の正当性について説得されていないことを示しています。

これはグローバル化、グローバルイゼーションという概念が新たな意味を持つようになったことも示しているとはいえないでしょうか。すなわち、ある重大な国際的な問題に直面した時、世界の市民がグローバルに、地球規模で迅速に連帯してその立場を表明し、発信することが可能になったのです。それは同時に、このような問題がその地理的所在にかかわらず、もはや遠い地域での他人ごとではなく、私達自身の問題になったという点でもあります。

これからの時代に生きる私達は、地球社会の市民として、このような問題に直面した時、それについて出来る限りの情報を集め、多様な見解に耳を傾け、検討し、自分自身の判断と結論を下し、それに基づいて行動することが求められるのです。

このグローバル化の時代にあって、そのような営みはもっと身近

な私達自身に直接関わること―例えば就職やキャリア、家族や人間関係などに劣らず、人生の重要な一部となるでしょう。私達はこれまでよりもはるかに重い、地球社会に対する連帯責任を負うことになるでしょう。

津田塾大学で自立と自主性、そして社会への責任と貢献という理念のもとで学んできた皆さんはきつと立派にこの責任を背負ってくださると信じています。

皆さんのご健勝とご活躍をお祈りして、ご挨拶といたします。

二〇〇二年度 各賞受賞者

卒業生を対象とした各賞の授与式が、三月十八日に行われました。受賞者(写真)は次のとおりです。



ド・フォード賞(優秀な卒業論文を

作成した英文学科四年生)

平川 永子、金子 さやか

理事会・評議員会開催報告

第一五三回理事会・第一二八回評議員会が三月二五日経団連会館で開催されました。

二〇〇三年度(平成十五年)予算(案)に関する件、津田塾大学教職員の二〇〇三年度(平成十五年)給与改定に関する件、津田塾大学就業規則等の一部を改正する規則(案)に関する件、津田塾大学学部学則の一部を改正する学則(案)に関する件について、可決承認されました。

また、平成十五年度大学基準協会相互評価申請の件、津田塾大学一〇〇年史の刊行の件、東中野土地・建物の件、学納金返還訴訟の件、西国分寺セミナーハウスの件、桜保全事業募金の件および学事報告について報告されました。

星野あい賞

(成績優秀な情報数理科学科四年生)

坂本 佳陽、佐藤 葉子

藤田たき賞(優秀な英語論文を作成した国際関係学科四年生)

鈴木 美和子

石坂泰三賞

英文学科(大学院進学者で成績優秀な者)

影山 育美、飯村 美雪

情報数理科学科(成績優秀な者)

稲岡 順子、林 奈帆子

国際関係学科(成績優秀で優秀な卒業論文を作成した者)

太田 みどり

二〇〇三年度 予算の概要

財務担当学長補佐 国際関係学科教授 加納 弘勝

二〇〇三年度予算は、三月二十五日に開催の理事会・評議員会で、表Ⅰ・Ⅱのように承認され成立しました。二〇〇三年度予算の概要について説明いたします。

(金額はすべて百万円未満四捨五入)

【二〇〇三年度予算】

一、二〇〇三年度の主な新規事業

二〇〇三年度は、施設設備の整備や既存建物の改修を中心的活動として計画しています。主な事業は、情報設備機器更新、オープン・リサーチ・センター設置、七

〇年間本学の教育を見守り続けてきた本館の屋根瓦・窓改修などにより教育研究環境を整備してまいります。特に情報設備については、最新の機器を導入しますので、十分満足していただけることと思います。今日のＩＴ化に対応して、学生がこれまで以上に情報化時代を生き抜くための技術と基礎能力を育成できるようにしていきます。また、本学の授業は、教員が作成した多数の印刷物を配布し、少人数によるきめ細かな教育を追求

表Ⅰ：資金収支予算書

(単位：百万円)			
収入の部			
科 目	2003年度予算	2002年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	2,669	2,693	△ 24
手数料収入	170	172	△ 2
寄付金収入	16	28	△ 11
補助金収入	347	361	△ 14
資産運用収入	14	14	1
資産売却収入	300	300	0
事業収入	64	63	1
雑収入	25	7	18
借入金等収入	30	62	△ 32
前受金収入	595	587	8
その他の収入	353	182	171
資金収入調整勘定	△ 604	△ 650	47
(前年度繰越支払資金)	1,485	1,343	143
収入の部 合計	5,466	5,160	306
支出の部			
科 目	2003年度予算	2002年度予算	増 減
人件費支出	1,897	1,850	47
教育研究経費支出	761	586	174
管理経費支出	134	163	△ 29
借入金等利息支出	9	10	△ 1
借入金等返済支出	89	89	△ 1
施設関係支出	107	190	△ 84
設備関係支出	133	126	7
資産運用支出	964	549	415
その他の支出	314	348	△ 34
[予備費]	30	30	0
資金支出調整勘定	△ 272	△ 269	△ 3
(次年度繰越支払資金)	1,300	1,485	△ 185
支出の部合計	5,466	5,160	306

表Ⅱ：消費収支予算書

(単位：百万円)			
消費収入の部			
科 目	2003年度予算	2002年度予算	増 減
学生生徒等納付金	2,669	2,693	△ 24
手数料	170	172	△ 2
寄付金	20	32	△ 11
補助金	347	361	△ 14
資産運用収入	14	14	1
事業収入	64	63	1
雑収入	25	7	18
帰属収入合計	3,310	3,341	△ 31
基本金組入額合計	△ 243	△ 375	133
消費収入の部合計	3,068	2,966	102

(単位：百万円)			
消費支出の部			
科 目	2003年度予算	2002年度予算	増 減
人件費	1,919	1,850	69
教育研究経費	1,059	876	183
管理経費	179	207	△ 28
借入金等利息	9	10	△ 1
資産処分差額	2	16	△ 14
[予備費]	30	30	0
消費支出の部合計	3,198	2,990	208
当年度消費支出超過額	130	24	
前年度繰越消費収入超	480	505	
翌年度繰越消費収入超	350	480	

しています。これに対応して、図書館の学生用和書の増強、学内のホームページにシラバスを公開し、ホームページの充実を継続して実施していきますので、ぜひ一度大学のホームページをご覧ください。

この他に、家計が急変した学生に対する緊急時対応奨学金の創設等多様な事業を実施していきます。

二、消費収支予算の概要

二〇〇三年度消費収支予算は、表Ⅱのとおりです。

帰属収入は三三億一千万円となり、主な収入は、学生生徒等納付金二六億六千九百万円(帰属収入の八〇・六%)、補助金三億四千七百万円(同・一〇・五%)、寄付金は二千万円(同・六%)を想定しています。

入学時に募集しているご寄付や学債の資金は、本学の少人数教育を支え、きめ細かな教育をさらに充実させることに用いる所存です。

消費収入の部の基本金組入額は、購入した図書や取得した建物・備品などの資産のうち当年度に支払いを済ませた額をいいます。二〇〇三年度は、二号館改修や既存建物の改修などへの支出を予定し、二億四千三百万円(帰属収入の七・三%)となります。

消費収入は、三〇億六千八百万円となりました。経常経費の削減に努力しましたが、消費支出は、三一億九千八百万円となり、結果として消費収支差額は一億三千万円の支出超過となりました。

卒業時ご寄付の 資金の活用について

二〇〇二年度卒業時に、三六七万円(四月三〇日受付現在)のご寄付をいただきました。誠にありがとうございます。ご芳名につきましては本紙次号に掲載させていただきます。

このご寄付は、生涯学習資金、ボランティア活動等資金、花と緑資金、図書充実、外国人留学生等支援資金、卒業時寄付講座に配分して使わせていただいております。貴重なご寄付で行った特定事業として、在校生や将来の津田塾生に明確に伝えられるように、書籍にはご寄付と記し、講座には冠を、それぞれの事業では、プレートなどを付し、明記させていただきます。



卒業時ご寄付により購入した「新グローブ世界音楽大事典」(第二版)

津田塾大学生協による 「津田塾生の学生生活 実態調査結果」について

学生生活課長
長塩 一行

この実態調査は、津田塾大学生協同組合が二〇〇二年十月に実施したものです。調査方法は、ランダムサンプリングにより、二四六名の学生から回収したアンケートをもとに集計したものです。回答者の内訳については、三・四年生がやや少なめとなっていますが、学科別人数や自宅・自宅外生の割合は全学生のもとの近い割合となっています。集計されたデータの中から、大学生活を中心に見た結果をご紹介します。

生活面について

一ヶ月の平均生活費については、自宅生は約五万八千円で、自宅外生は、約十四万九千円（住居費約六万二千元を含む）となっており、自宅外生の住居形態は、専用バス付八畳以上の洋間のアパートが一般的になっています。

生活費の中で節約したい費目は、「外食費」、増やしたい費目は「衣料品」、「書籍費」を挙げています。

アルバイトは、七〇%以上の学生が経験しています。アルバイトの使途は、衣料品・サークル関係・レジャー旅行等に充てています。海外旅行は、大学入学後に六〇%の学生が経験しています。パ

ソコンは五〇%、携帯電話はほぼ全員が保有しています。

日常生活の中で気になることは、「生活・金銭面」、「時間が足りない」が全学生に共通したものととして挙げられ、「授業・レポート等勉強上のこと」は一・二年生が他の学年よりも多くなっています。二年生は「専門分野」や「進路のこと」、三年生は「就職のこと」が多くなっています。

授業・勉強について

大学が好きか嫌いかとの質問に対しては、「好き」、「まあ」を合わせて約八五%でした。これは学年や学科に偏りもなく、多くの学生が満足していることが分かります。本学の特長である、きめ細かな少人数教育が学生に評価されていることの現れであると言えます。

学生生活は充実しているかとの質問に対しては、「はい」、「まあ」を合わせると八〇%以上が回答しており、特に四年生では「はい」の回答数が他の学年の二倍強になっています。大学生生活の重点については、「勉強第一」が三〇%弱の回答があり、四年生は三〇%を超えています。二番目以降の回答は、「ほどこ」と「豊かな人間関係」が約二〇%、「クラブ第一」

「趣味第一」が各約一〇%であり、「資格取得第一」、「アルバイト」は一%強の少数でした。この数字は、本学には具体的な目標を持つて積極的に勉強したい学生が多く集まっていることを示していると同時に、本学が高等教育機関として満足の得られる教育を施していることを証左するものであると言えます。



昼休みの中庭で昼食をとる学生

卒業までに身に付けておきたい事については、九〇%の学生が「たくさんある」、「まあある」と回答しており、積極的な姿勢が伺えます。既に習得している資格等では、英検・TOEIC等が四〇%を占め、特に文系の学生は、理系の学生の三倍が語学系統の資格を習得し、学科の特性が出ています。資格等の取得は、「勉強中」、「習得したい」との回答も非常に多くありました。また、これらの

勉強方法は「独学」が非常に多く、「大学の授業・学外の特別講座受講等」は少数となっています。ここに、本学学生の基礎的学力の高さと、自ら主体的に学ぶ姿勢が伺えます。資格以外では、「海外体験と語学全般」が多く、それ以外に挙げられる事項は、「ボランティア」、「趣味・お稽古」、「社会体験」、「専門資格」、「国内外の常識」、「人間関係」、「インターンシップ」等が挙げられています。これは、本学の学生が世界を視野に入れた広い視点を持っていることの表れであると言えます。

就職について

就きたい職業・職種の決定については、「決めていない」、「まあ」を合わせると一年生は三五%、二年生は五〇%弱、三年生は六〇%、四年生では八〇%弱と学年が上がるにつれ増加しています。一年生からキャリアについて具体的に考えている学生が少なくないことが分かります。

就きたい職業・業種の為に何かをしているかとの質問に対しては、「している」、「まあ」は、一年生は二〇%で、学年が上がる毎に増え、四年生では約八〇%になります。

就職について不安を感じているとの質問に対しては、「感じている」、「まあ」を合わせて一年生は八〇%弱、一・三年生は、約八五%、四年生は六〇%強の回答となっています。そのような学生の

要望に応えるために、本学では三年生を中心に通年で四〇回以上の進路についてのガイダンスを開催し、進路について多面から考えることのできる機会を提供しています。従って三年生の時期に自分を客観的に見つめ直すようとしている姿勢が伺えます。

課外活動について

約七〇%の学生がボランティア活動に関心をもち、その内の半数がボランティア活動を経験しています。活動の主な内容は、「老人介護」、「障害児支援」、「募金」「海外協力」、「施設訪問」等が挙げられます。これは、教職課程で参加する数字も含まれているようですが、それに加えて、本学の学生が、自分の能力を他者のために活かしたいという意識が高いことを示しています。

学生のうちの六五%がサークルに加入しています。サークルに求めるもの、加入している理由は、「友達や仲間ができる」が一番多く、次に「サークル活動の内容が好き、楽しい」が挙げられています。その他には「先輩・後輩との繋がりができる」、「趣味を深める」、「いろいろな情報が得られる」、「自分を鍛える」などの理由となっています。

勉学に勤しみ、将来の進路を考えながら自己を磨き、人間関係を大切にし、学生生活を楽しむ本学学生のライフスタイルが分かる調査内容であったと思われます。

「アフガニスタンの指導的女子教育者のための 研修」に学生インターンとして参加して

大学院文学研究科 後期博士課程二年 倉林 直子

この春休み、私は学生インターンとして五女子大大学コンソーシアムと国際協力事業団（以下JICA）による「アフガニスタンの指導的女子教育者のための研修プログラム」に携わる貴重な機会を得ました。学生インターンは「研修レポート」、すなわち一ヶ月にわたる研修に実際に参加し、研修の模様や研修員の意見、考え方などについてプログラムに関わる人に知らせるための報告書を作成するという仕事を与えられました。

研修レポートの仕事の流れは、他大学の学生とペアになり、お互い協力しながら取材し、各日の午後九時までに二人の意見をまとめた二千字以上の報告書を作成し、それを担当教員にEメールで送り、担当教員のチェックを受け、訂正箇所がある場合は、午前零時までに修正して、翌朝には研修に携わる方々の情報交換用のホームページに報告書を公開するというものでした。

報告書は、研修に参加していない人にも分かるように簡潔に書く必要があったので、初めて会ったも同然のパートナーの学生と共に研修を取材し、的確に要点をまとめた報告書を短時間で書くことは、思ったよりも大変な仕事でした。

私は、JICAの東京国際センター（以下TIC）で行われた初日のオリエンテーションと津田における英語教育を扱った研修を担当しました。普段短時間で文章を書くことに慣れていないうえ、初日は時間があまりなくとても苦労しました。TICから家に帰る間に構想を練り、あわただしく報告書を書き上げてパートナーにEメールで送ったことを覚えています。

また津田での研修で交流館のパソコンの前で夜遅くまでパートナーと議論を戦わせながら報告書を作成したのもよい経験でした。また、毎日他のインターンの記事をチェックするのは楽しみでもあり、それぞれ特色のある報告書を読むことで勉強にもなったと思います。



3月5日 津田塾大学での研修

それに加えて研修自体からも学ぶことがたくさんありました。例

えば、オリエンテーションではJICAがどのように支援プログラムを進めているのかを直接知り、またその中でスタッフの皆さんが大変な苦労をなさっているのをまのあたりにして、国際協力、支援というのとはとても響きのいい言葉だけれど現場では文化、習慣をはじめとしたさまざまな違いから摩擦や困難が伴う大変な仕事であることを実感しました。

また津田の研修では言語（英語）教育を進める指針として日本の英語教育が紹介されたのですが、その中で普段接することのないアフガニスタン女性の意見を直接聞き、日本とアフガニスタンの多なる教育の格差、その大切さを再認識する機会を得ました。教材どころか机や椅子、教室もないアフガニスタンの現状について彼女達の口から聞かされると自分がいかに恵まれた環境で教育を受けているのかを思い知らされ、当然だと感じていた自分の置かれている状況に感謝しなくてはならないことを痛感しました。

この研修は、アフガニスタンの女性にとつてとても有意義な機会を提供していたと同時に、日本の学生にとつても身近に教育問題やその他を考えるよいきっかけを与えるものになっていったと思います。そういう意味でもこの研修がこれからも続いていくこと、また多くの学生がインターン、あるいはその他の形で関わっていただけることを望んでいます。

奨学金

津田塾大学海外奨学金

津田塾大学海外奨学金は、卒業生の故太田美代子氏の基金をもととする給付型の奨学金です。海外奨学金の種類は、一年間留学する学部生・大学院生・交換受入生を対象とするⅠ種と海外での学術調査や学会等に出席する大学院生を対象とするⅡ種があります。海外奨学金は、年二回募集します。

二〇〇二年度受給者（後期）

Ⅰ種 留学

交換受入生 Barnett, Laura

英文学科三年 小此木 幸子

英文学科三年 中岡 佑里子

英文学科四年 金木 瞳

英文学科四年 浅井 かおり

英文学科四年 浅川 真知子

英文学科四年 小澤 久美子

英文学科四年 角田 瑞希

国際関係学科三年 杉山 知子

国際関係学科四年 手川 美保子

国際関係学科四年 小谷 由紀子

国際関係学科四年 川部 はるか

国際関係学科四年 小林 牧子

Ⅱ種 学会、学術調査

国際関係学研究科後期博士課程

山下 靖子

国際関係学研究科修士課程

橘 生子

フレッシュマン・スカラシップ

一般入試の成績優秀者を対象に大学が指名する今年度のフレッシュマン・スカラシップの授与式は、四月七日に行われました。



受給者（写真）は次の通りです。
フレッシュマン・スカラシップA（授業料・施設設備費相当額給付）
布川聡美（英文学科）
河野里奈（情報数理科）
フレッシュマン・スカラシップB（三〇万円給付）
原田吏枝子・阿部奈央（英文学科）
山崎景子・針谷優美（国際関係学科）

津田塾同窓会賞受賞者決定
「津田塾同窓会賞」は、本学の同窓会組織である津田塾同窓会から、成績・人物優秀で奉仕の精神に富む四年次生を対象に給付する奨学金です。

二〇〇三年度は、高橋暁・織井さくら（英文学科）、三神京子（情報数理科）、小谷由紀子・小野百合子（国際関係学科）の五人が選ばれました。
「津田塾同窓会賞」は、五月十八日の同窓会総会にて授与式が行われました。

公開講座のお知らせ

総合二〇〇三

「邂逅—私の出会いの瞬間—」

この講座は、学生と教員が協力して運営にあたる本学学生のための正規授業ですが、市民の方々の交流を願って一般に公開しています。年度ごとに現代の切実な問題を取り上げて、そのテーマについて各界から講師を招いてお話を伺います。

今年のテーマは、「邂逅—私の出会いの瞬間—」です。講演者が経験した出会いとそこから生まれたもの（人々とのつながり、新しい発見、喜びや感動、失敗談）を中心にお話を伺います。

日時 毎週木曜日
午後一時～二時三十分

会場 新館特別教室

聴講料 無料

問い合わせ先 教務課

電話〇四二—三四二—五一一〇

ウェルネス・センター公開講座

「共に生きる」

二〇〇二年度に続き、異質のものとどう共生するか、矛盾する命題をいかに統合するかについて考えます。

〇第一回 五月十四日(水)

「医師と自然写真家、二つの視点で「いのち」を見つめて」

井上 冬彦氏（(医) 恵仁会・松島クリニック・診療部長、自

然写真家）

〇第二回 六月二五日(水)

「気をとおして共に生きる」

濱野 清志氏（京都文教大学）

〇第三回 十月八日(水)

「いのちのバトンタッチ」

青木 新門氏（詩人）

〇第四回 十月二三日(水)

「物語にみる子どもの世界／大人の世界」

早川 敦子氏（本学英文学科助教授）

〇第五回 十一月二二日(水)

「津田梅子記念交流館共催」

「いのちを支える言葉」／死を

生きた人からのメッセージ」

柳田 邦男氏（ノンフィクション作家）

時間 午後二時四十分～四時一〇分
会場 第一～四回・AVセンター
五～二教室

第五回・新館特別教室

聴講料 無料

申込み方法 ハガキまたはFAXにて、希望する回、ご住所、お名前、電話番号をご記入の上、下記

申込みまでお送りください。
申込み・問い合わせ先
〒一八七—八五七七
東京都小平市津田町二—一

津田塾大学ウェルネス・センター
電話 〇四二—三四二—五一一〇
FAX 〇四二—三四二—五一一四

☆本学の公開講座を聴講する方は、保育サービスが利用できます。

保育対象 〇歳～未就学児童
費用 一時間八〇〇円

申込み方法 利用希望日の一週間前

までに総務課（電話〇四二—三四二—五一一〇）にご連絡ください。

津田塾同窓会主催

「津田塾セミナー」のお知らせ

津田塾同窓会では、七月二五日（金）・二六日（土）、津田塾大学にて「津田塾セミナー 知への感性 未知への勇気」を開催します。

〇七月二五日（金）

「ゲーミング」 吉川肇子、「批判的談話分析」をしてみると 上田明子、「経済合理性とエコロジック的理性」三浦永光、「賢者の石」とは 松岡佑子、「現代イギリス女流詩人を読む」内田道子、「インターネットの常識／非常識」青柳龍也

イベントⅠ 土谷遙子「アフガン文化にふれる＆お茶会」

〇七月二六日（土）

「ケルトが結ぶアイルランドと日本」九頭見一士、「ゲーミングⅡ」吉川肇子、「いま栄養学が明らかにしている」病気を遠ざける食事」丸元淑生、「ボケない、ボケさせない為」眞田祥一、「イスタンブール、その歴史と現状」瀧澤幸子、「楽しい数学授業」黒田俊郎

イベントⅡ 杉澤陽子「伝統文化・仕舞にふれる＆お茶会」

受講料（一コマ）一般一五〇〇円 学生 五〇〇円

申込み・問い合わせ先
津田塾同窓会事務局
電話 〇三三—四七八—一九七二
FAX 〇三三—四〇二—一七三〇

在学生・教職員の皆さんへ

重症急性呼吸器症候群(SARS)に関する帰国勧告等について

外務省は、重症急性呼吸器症候群（以下「SARS」）の集団発生に伴い、中国全土、香港、マカオ、台湾、シンガポール、フィリピンへの渡航について次のとおり危険情報を発出しています。（二〇〇三年五月十六日現在）

一、「渡航の是非を検討して下さい」と、不要不急の渡航の延期が勧められている地域：北京市、天津市、広東省、山西省、内モンゴル自治区、香港、台湾

二、「十分注意して下さい」と渡航、潜在に当たって安全対策に特別な注意をするよう呼びかけられている国・地域：一以外の中国全土、マカオ、シンガポール、フィリピン

津田塾大学は、外務省の危険情報報発出地域に渡航中の本学学生・教職員に一時帰国を、また、これから渡航予定の方には渡航延期を強く勧告します。なお、帰国後は登校、出校前に大学に連絡してください。

大学ホームページ (<http://www.tsuda.ac.jp>) にも掲出しています

が、今後とも外務省の危険情報をはじめ、最新の関連情報の収集に努めると共に、以下の事項に留意してください。

一、三八度以上の急な発熱、痰を伴わない咳、息切れ、呼吸困難などの呼吸器症状が出た場合は、至急最寄の医療機関で受診する。

二、現地でSARSが疑われる患者、もしくはSARSの可能性がある患者と接触した場合は、至急最寄の医療機関で受診する。

三、現時点では不明なことが多いが、次の3点の感染予防策を行う。

・手洗い・うがいの励行、マスクの使用。

・人混みはできるだけ避ける。特に患者の集まる医療機関へはなるべく立ち入らない。

・免疫力を高めるため、適度な食事、運動、休息をとる。

【関連情報提供ホームページ】
外務省 海外安全ホームページ
<http://www.punzen.mofa.go.jp/>
厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/t0318-1.html>
世界保健機関 (WHO)
<http://www.who.int/en/>

【大学連絡先】
総務課 Tel: 〇四二—三四二—五一一一
e-mail: sounika@tsuda.ac.jp
教務課 Tel: 〇四二—三四二—五一一〇
e-mail: kounika@tsuda.ac.jp
国際センター Tel: 〇四二—三四二—五一一六
e-mail: cie@tsuda.ac.jp